

令和3年度
芦原温泉上水道財産区水道事業会計
決算審査意見書

あわらし市監査委員

あ 監 委 第 41 号

令 和 4 年 8 月 5 日

あ わ ら 市 長 森 之 嗣 様

あ わ ら 市 監 査 委 員 伊 東 秀

あ わ ら 市 監 査 委 員 笹 原 幸



令 和 3 年 度 芦 原 温 泉 上 水 道 財 産 区 水 道 事 業 会 計 決 算 の 審 査 意 見 の 提 出 に つ い て

地 方 公 営 企 業 法 第 30 条 第 2 項 の 規 定 に よ り、審 査 に 付 さ れ た 令 和 3 年 度 芦 原 温 泉 上
水 道 財 産 区 水 道 事 業 会 計 決 算 に つ い て 審 査 し た 結 果、次 の と お り 意 見 を 提 出 す る。

目 次

芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算審査意見

第1 審査の対象	-----	1
第2 審査の期日	-----	1
第3 審査の方法	-----	1
第4 審査の結果	-----	1
・ 芦原温泉上水道財産区水道事業会計	-----	2

凡 例

1. 文及び図表中の金額・比率は、原則として表示単位未満を四捨五入したものであり、したがって、合計と内訳の計、差引等が一致しない場合がある。
2. ポイントとは、百分率（%）間の単純差引数値である。
3. 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「－」…… 該当数値のないもの、意味のないもの
 - 「△」…… 比較により減少したもの
 - 「皆増」…… 前年度に数値がなく全額増加したもの
 - 「皆減」…… 当年度に数値がなく全額減少したもの

令和3年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

令和3年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算

第2 審査の期日

令和4年7月12日

第3 審査の方法

審査に当たっては、決算報告書及びその附属書類が、関係法令に準拠して作成され企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係部局から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した。

第4 審査の結果

審査に付された各会計の決算報告書及びその附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し経営成績及び財政状態を適正に表示しており、また、予算執行及び会計処理は総じて適正であると認められた。

1 業務実績について

普及状況は前年度に比べ、給水戸数が8戸増加し2,195戸となったものの、給水区域内人口は61人減少し2,626人となった。

年間総配水量は11万2,906 m^3 (12.9%)増加し98万8,355 m^3 となり、年間有収水量も、11万5,544 m^3 (13.6%)増加し96万4,266 m^3 となった。有収率については前年度に比べ0.6%増加し、97.6%となった。

なお、主な業務実績は次表のとおりである。

主 な 業 務 実 績

区 分		令和2年度	令和3年度	増減値	増減率
普及 状況	総 人 口 (A)	27,512 人	27,084 人	△ 428 人	△ 1.6 %
	給 水 戸 数	2,187 戸	2,195 戸	8 戸	0.4 %
	給水区域内人口 (B)	2,687 人	2,626 人	△ 61 人	△ 2.3 %
	普 及 率	100.0 %	100.0 %	0 %	-
年 間 配 水 量 (C)		875,449 m^3	988,355 m^3	112,906 m^3	12.9 %
年 間 有 収 水 量 (D)		848,722 m^3	964,266 m^3	115,544 m^3	13.6 %
一 日 配 水 能 力 (E)		14,260 m^3	14,260 m^3	0 m^3	-
一 日 最 大 配 水 量 (F)		3,636 m^3	3,832 m^3	196 m^3	5.4 %
一 日 平 均 配 水 量 (G)		2,398 m^3	2,708 m^3	310 m^3	12.9 %
導 送 配 水 管 延 長 (H)		32,164 m	32,164 m	0 m	-
有 収 率 (D/C)		96.9 %	97.6 %	0.6 %	0.6 %
施 設 利 用 率 (G/E)		16.8 %	19.0 %	2.2 %	12.9 %
負 荷 率 (G/F)		66.0 %	70.7 %	4.7 %	7.2 %
最 大 稼 働 率 (F/E)		25.5 %	26.9 %	1.4 %	5.4 %
配 水 管 使 用 効 率 (C/H)		27.2 %	30.7 %	3.5 %	12.9 %

2 予算執行について

(1) 収益的収入

当年度の収益的収入は、予算額1億7,613万5千円に対し決算額は1億7,715万5千円で、102万円(0.6%)上回っている。

収益的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 水道事業収益	176,135	177,155	1,020	0.6
1 営業収益	169,426	170,428	1,002	0.6
2 営業外収益	6,709	6,727	18	0.3

(注) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税 1,539万5千円を含む。

(2) 収益的支出

当年度の収益的支出は、予算額1億7,394万2千円に対し決算額は1億7,233万1千円で、執行率99.1%となっており、161万1千円の不用額を生じている。

収益的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 水道事業費用	173,942	172,331	1,611	99.1
1 営業費用	168,779	166,567	2,212	98.7
2 営業外費用	4,831	5,676	△ 845	117.5
3 特別損失	219	88	131	40.1
4 予備費	113	0	113	-

(注) 決算額には、仮払消費税及び地方消費税846万5千円を含む。

(3) 資本的収入

当年度の資本的収入は、予算額146万5千円に対し決算額は39万6千円で、107万円(73.0%)の不足となっている。

資本的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 資本的収入	1,465	396	△ 1,070	△ 73.0
1 工事負担金	165	116	△ 50	△ 30.0
2 他会計負担金	1,300	280	△ 1,020	△ 78.5

(注) 決算額は、仮受消費税及び地方消費税1万1千円を含む。

(4) 資本的支出

当年度の資本的支出は、予算額3,345万9千円に対し決算額は2,506万7千円、執行率74.9%となっており、839万2千円の不用額を生じている。

資本的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	繰越額	不用額	執行率
1 資本的支出	33,459	25,067	0	8,392	74.9
1 建設改良費	33,459	25,067	0	8,392	74.9
(1) 取水設備改良費	3,000	220	0	2,780	7.3
(2) 送水設備改良費	1,958	1,958	0	0	100.0
(3) 配水設備改良費	13,172	8,986	0	4,186	68.2
(4) 営業設備費	0	0	0	0	-
(5) 事務費	15,329	13,903	0	1,426	90.7

(注) 決算額は、仮払消費税111万円を含む。

なお、資本的収支において、資本的収入額が資本的支出額に不足する額2,467万2千円は、当年度分損益勘定留保資金2,357万2千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額110万円を補てんしている。

3 経営成績について

(1) 経営成績の概況

当年度の損益計算書を前年度と比較すると次表のとおりである。

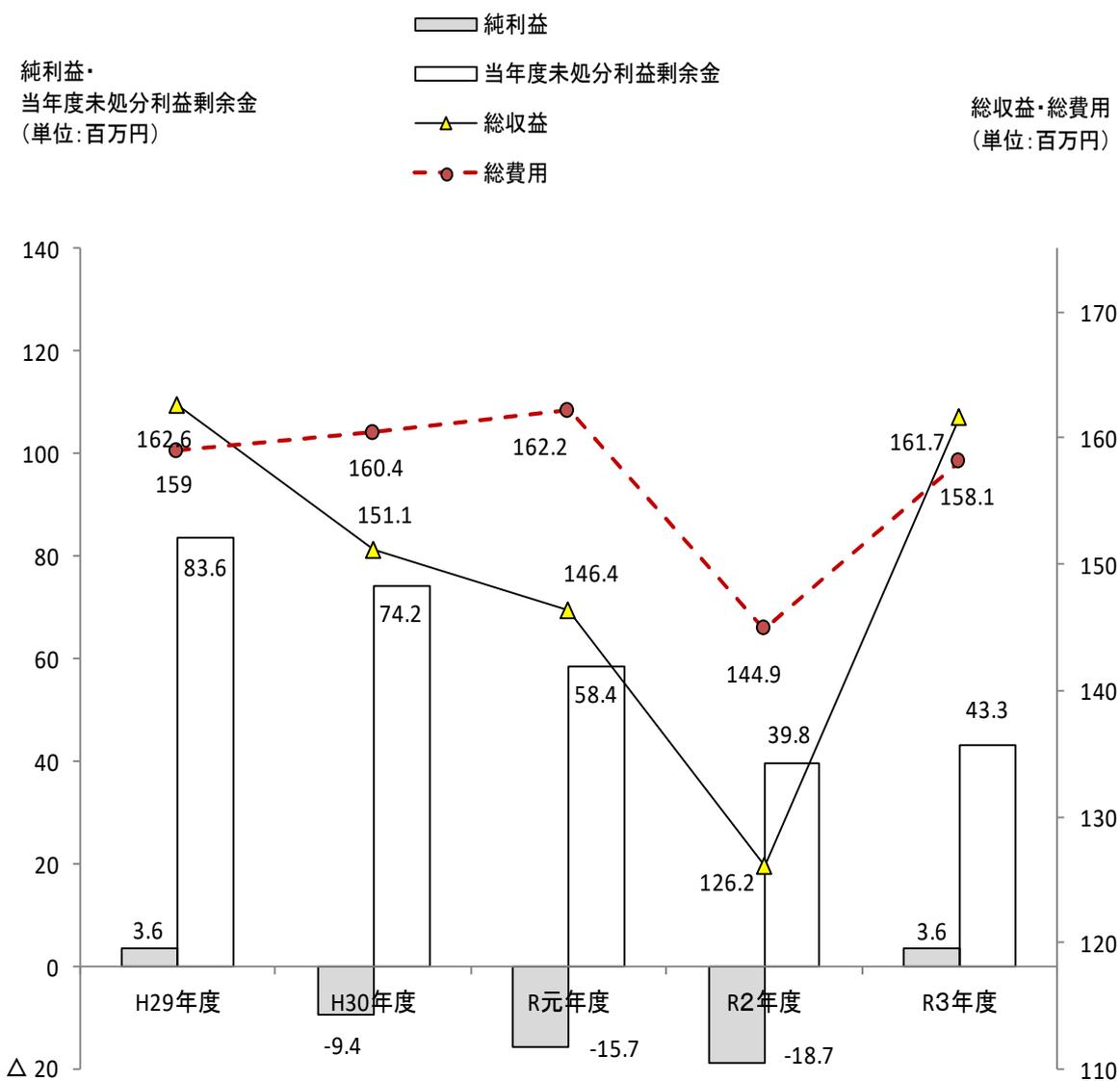
損益計算書前年度比較表

(単位：千円、%)

区 分	令和2年度	令和3年度	増減額	増減率
営業収益	119,506	155,032	35,528	29.7
給水収益	116,792	151,512	34,721	29.7
受託工事収益	61	63	2	4.0
その他営業収益	2,653	3,457	803	30.3
営業費用	144,919	158,108	13,189	9.1
原水及び浄水費	62,040	78,140	16,100	26.0
配水及び給水費	5,197	4,705	△ 493	△ 9.5
受託工事費	14	25	12	85.7
総 係 費	32,190	29,678	△ 2,511	△ 7.8
減価償却費	43,349	42,704	△ 645	△ 1.5
資産減耗費	943	43	△ 900	△ 95.4
その他営業費用	1,186	2,812	1,626	137.1
営業損益	△ 25,413	△ 3,076	22,337	87.9
営業外収益	6,737	6,709	△ 28	△ 0.4
受取利息及び配当金	47	33	△ 14	△ 30.6
長期前受金戻入	6,690	6,667	△ 23	△ 0.3
雑 収 益	0	9	9	皆増
営業外費用	0	0	0	-
雑 支 出	0	0	0	-
経常損益	△ 18,676	3,633	22,309	119.5
特別損失	20	81	61	298.1
過年度損益修正損	20	81	61	298.1
その他特別損失	0	0	0	-
当年度純利益	△ 18,696	3,552	22,249	119.0
前年度繰越利益剰余金	58,479	39,782	△ 18,696	△ 32.0
当年度未処分利益剰余金	39,782	43,334	3,552	8.9

営業収益は、前年度に比べ3,552万8千円(29.7%)増加し、1億5,503万2千円となった。これは主に、給水収益が3,472万1千円(29.7%)増加したことによるものである。営業費用は、前年度に比べ1,318万9千円(9.1%)増加し、1億5,810万8千円となった。また、営業収益から営業費用を差し引いた営業損益は307万6千円の営業損失となり、前年度に比べ2,233万7千円(87.9%)プラスとなった。営業外収益は、前年度に比べ2万8千円(0.4%)減少し、670万9千円となった。営業損失に営業外収益を加減した結果、経常損益は363万3千円のプラスとなった。特別損失は、前年度に比べ6万1千円(298.1%)増加し、8万1千円となった。経常損益から特別損失を差し引いた結果、355万2千円の当年度純利益となった。なお、当年度純利益に前年度繰越利益剰余金3,978万2千円を加えた結果、当年度未処分利益剰余金は4,333万4千円となった。

過去5年間の収益費用の推移は、次のとおりである。



(2) 性質別費用

特別損失以外の費用を性質別に前年度と比較すると次表のとおりである。

費用性質別前年度比較表

(単位：千円、%)

No.	区 分	令和2年度	令和3年度	増減額	増減率
1	人 件 費	26,132	23,255	△ 2,878	△ 11.0
2	備消耗品費	472	540	68	14.4
3	委 託 料	5,463	5,625	163	3.0
4	賃 借 料	1,420	1,549	129	9.1
5	修 繕 費	4,905	3,719	△ 1,186	△ 24.2
6	動 力 費	5,081	5,818	737	14.5
7	補 償 費	1,932	1,936	4	0.2
8	報 償 費	460	460	0	-
9	ペットボトル水売却原価	1,186	2,812	1,626	137.1
10	受 水 費	49,434	65,536	16,101	32.6
11	有形固定資産減価償却費	43,349	42,704	△ 645	△ 1.5
12	そ の 他	5,084	4,154	△ 930	△ 18.3
	合 計	144,919	158,108	13,189	9.1

費用合計は、1,318万9千円(9.1%)増加し、1億5,810万8千円となった。

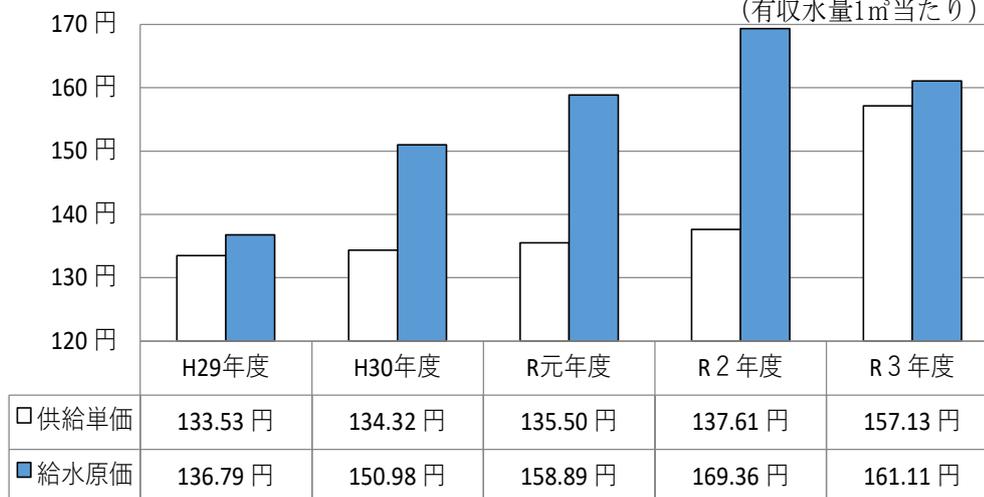
費用を性質別に見ると、前年度に比べ、受水費が1,610万1千円(32.6%)、ペットボトル水売却原価が162万6千円(137.1%)増加したことが主な要因である。

(3) 供給単価及び給水原価

供給単価及び給水原価の推移は次表のとおりである。

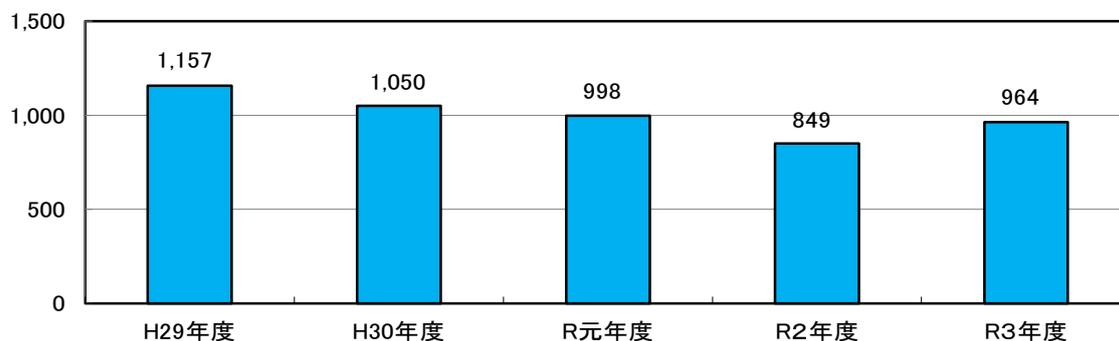
供給単価及び給水原価の推移

(有収水量1m³当たり)



(4) 有収水量の推移

(単位:千m³) 有 収 水 量 の 推 移



年間有収水量については、前年度に比べて11万5,544 m³ (13.6%)増加し、96万4,266 m³となり、前年度を上回っている。

4 財政状態について

当年度の貸借対照表を前年度と比較すると次表のとおりである。

貸借対照表前年度比較

(単位:千円、%)

区 分	令和2年度	令和3年度	増減額	増減率
固 定 資 産	1,044,905	1,026,114	△ 18,790	△ 1.8
有形固定資産	1,044,905	1,026,114	△ 18,790	△ 1.8
土 地	145,535	145,535	0	-
建 物	50,343	48,695	△ 1,649	△ 3.3
構 築 物	806,800	790,302	△ 16,499	△ 2.0
機 械 及 び 運 搬 具	26,480	26,431	△ 48	△ 0.2
工 具 器 具 及 び 備 品	5,538	4,943	△ 595	△ 10.7
建 設 仮 勘 定	10,209	10,209	0	-
流 動 資 産	198,820	217,120	18,300	9.2
現 金 預 金	179,879	195,035	15,156	8.4
未 収 金	17,639	21,597	3,957	22.4
貯 蔵 品	1,302	489	△ 813	△ 62.4
資 産 合 計	1,243,725	1,243,235	△ 490	△0.04

(単位：千円、%)

区 分	令和2年度	令和3年度	増減額	増減率
固定負債	7,913	8,470	557	7.0
引当金	7,913	8,470	557	7.0
退職給付引当金	3,899	4,456	557	14.3
修繕引当金	4,014	4,014	0	-
流動負債	11,112	12,795	1,683	15.1
引当金	1,851	1,762	△ 89	△ 4.8
賞与引当金	1,592	1,513	△ 80	△ 5.0
法定福利費引当金	259	249	△ 10	△ 3.8
未払金	4,804	6,560	1,756	36.6
前受金	173	27	△ 145	△ 84.1
預り金	4,284	4,445	161	3.8
繰延収益	91,421	85,034	△ 6,387	△ 7.0
長期前受金	340,841	341,121	280	0.1
収益化累計額	△ 249,420	△ 256,087	△ 6,667	2.7
負債合計	110,446	106,299	△ 4,147	△ 3.8
資本金	707,616	707,616	0	-
自己資本金	707,616	707,616	0	-
補てん財源処分組入額	0	0	0	-
剰余金	425,663	429,320	3,657	0.9
資本剰余金	42,029	42,134	105	0.2
工事負担金	39,160	39,265	105	0.3
他会計負担金	2,870	2,870	0	-
利益剰余金	383,634	387,186	3,552	0.9
利益積立金	24,121	24,121	0	-
建設改良積立金	87,843	87,843	0	-
当年度未処分利益剰余金	39,782	43,334	3,552	8.9
処分済利益剰余金	231,887	231,887	0	-
資本合計	1,133,279	1,136,936	3,657	0.3
負債・資本合計	1,243,725	1,243,235	△ 490	△ 0.04

(1) 資産

当年度の資産合計は、前年度に比べ49万円 (0.04%) 減少し、12億4,323万5千円となった。

固定資産は、前年度に比べ1,879万円 (1.8%) 減少し、10億2,611万4千円となった。

流動資産は、前年度に比べ1,830万円 (9.2%) 増加し、2億1,712万円となった。

(2) 負債・資本

当年度の負債合計は前年度に比べ414万7千円 (3.8%) 減少し、1億629万9千円となった。

固定負債は、前年度と比べ55万7千円 (7.0%) 増加し、847万円となった。

流動負債は、前年度に比べ168万3千円 (15.1%) 増加し、1,279万5千円となった。これは主に、未払金が175万6千円 (36.6%) 増加したことなどによるものである。

資本金は、7億761万6千円と前年同額であった。

また剰余金は、365万7千円 (0.9%) 増加し4億2,932万円となった。

その結果、当年度の資本合計は前年度に比べ365万7千円 (0.3%) 増加し、11億3,693万6千円となった。

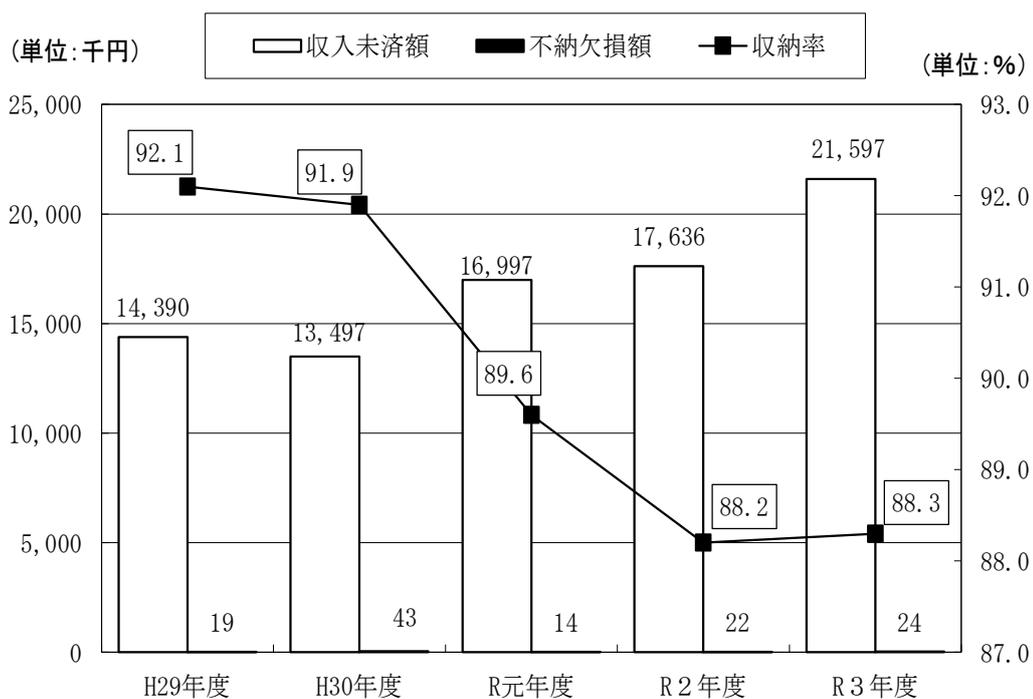
水道料金に係る収納状況の内訳は次表のとおりである。
 なお、水道料金の収入未済額は2,159万7千円で収納率は88.3%となっている。

水道料金収納状況表

(単位：千円、%)

区 分		調定額	収入済額	不納 欠損額	収入未済額	収納率
R 3	現年度	166,665	150,481	0	16,184	90.3
	過年度	17,636	12,199	24	5,413	69.2
	計	184,301	162,680	24	21,597	88.3
R 2	現年度	128,486	115,834	0	12,652	90.2
	過年度	20,835	15,829	22	4,984	76.0
	計	149,321	131,663	22	17,636	88.2
比 較	現年度	38,179	34,647	0	3,532	-
	過年度	△ 3,199	△ 3,630	2	429	-
	計	34,979	31,017	2	3,961	-

収入未済額・不納欠損と収納率の推移



5 審査のまとめ

1 決算の総括

芦原温泉上水道財産区水道事業は、昭和43年に給水を開始して以来、市民が健康で快適な生活を営む上で欠かせない社会基盤として事業を継続してきた。

本年度は、給水量の減少により悪化していた事業収支を改善するため、平均15%増の料金改定を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により激減していた年間給水量は、営業用等の使用水量が回復したことから、対前年比13.6%、115,544m³増の964,266m³となった。

収益的収支における収入は、営業収益155,032,454円、営業外収益6,708,944円を計上し、合計161,741,398円となり、対前年比28.1%、35,498,797円の増収となった。一方の支出は、営業費用158,108,120円、特別損失81,267円を計上し、合計158,189,387円となり、対前年比9.1%、13,250,297円の増となったが、給水量の増加及び料金改定により、4年ぶりに3,552,011円の純利益を計上することができた。

また、資本的収支においては、総事業費25,067,356円で、新型コロナウイルス感染症の影響により悪化した事業財政に鑑み、前年度に引き続き、令和3年度も緊急を要する工事以外は更新を見送った。

2 審査意見

- (1) 経営成績をみると、平成30年度から令和2年度まで3年連続の赤字決算であったが、今年度は黒字決算となった。これは令和3年4月1日からの料金改定はもとより、あわら温泉利用客数の回復により給水収益3,472万1千円がプラスに転じたことが主な要因である。今後も給水量の推移を注視しながら、経費削減に取り組まれない。
- (2) 水道料金の収納状況は、収納率が平成27年度から平成30年度の期間は92.0%前後を推移していたものの、令和元年度は89.6%、令和2年度は88.2%、令和3年度は88.3%と下降している。これは令和元年度に発生した高額滞納者の滞納額が収入未済額の大部分を占めていることが要因である。利用者間の公平性確保の面からも、引き続き滞納の発生防止及び徴収強化に努められたい。
- (3) 水道事業は、日常生活の営みとともに、産業活動を推進していくうえで欠くことのできないライフラインである。しかし、水道事業を取り巻く環境は、人口減少や節水型給水器具の普及、近年頻発する自然災害に加え、新型コロナウイルス感染症の発生等、予測の出来ない状況である。更には設備投資に要する経費の増額など、経営環境は厳しさを増す一方であることから、費用の4割を占める県水受水量の見直しについても、今まで以上に要望し経営基盤の強化に努められたい。